

全国平均と比較すると、本県の構造別保有率は、木造が高く、鉄筋が低い。鉄骨の保有率は、全国平均より高く、年度の経過に伴い、本県と全国平均との保有率較差は大きくなる。

屋内運動場の地域別木造保有率をみると、図2-2-27のとおり、各地域ともに、50%以下であるが、会津、県北及び南会津地域は、比較的高く、県中、いわき地域がかなり低い。

屋内運動場の保有面積に対する危険面積の比率をみると、表2-2-15のとおり、毎年低くなり、危険建物の解消が計画的に図られている。

次に、木造面積に対する危険面積の比率をみると、ほぼ低くなる傾向を示しつつ推移する。

更に、危険面積に対する要改築面積の比率をみると、不規則な状態で推移する。

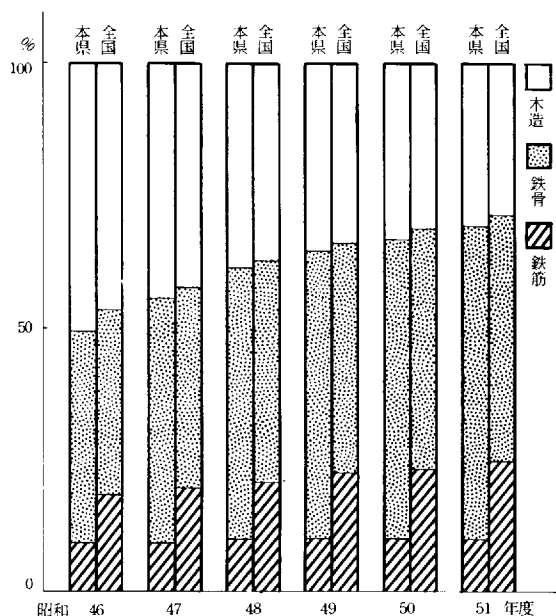
最近の公立文教施設整備事業実施状況(単年度分)をみると、小学校校舎の新增築事業に係る事業実施総面積に対する構造別比率は、鉄筋が極めて高く、鉄筋及び鉄骨の比率を加えた耐火構造率は、昭和50年度を除き、100%である。なお、昭和50年度においても、鉄筋94.0%、鉄骨4.6%、木造1.4%となり、木造による事業は、一部でわずかに実施されたにすぎない。

小学校屋内運動場の新增築事業に係る事業実施総面積に対する構造別比率は、鉄骨が極めて高くそれに鉄筋の比率を加えた耐火構造率は100%である。

小・中学校統合校舎等の新增築事業に係る事業実施総面積に対する構造別比率は、鉄筋がかなり高く、残りを鉄筋・鉄骨及び鉄骨が占め、耐火構造率は、各年度ともに100%である。

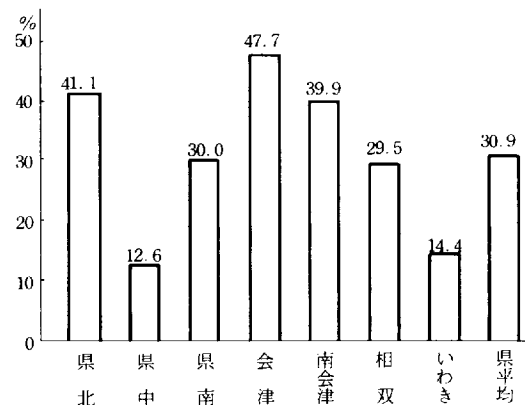
小・中学校危険建物の改築事業に係る事業実施総面積に対する構造別比率は、鉄筋が極めて高く、それに鉄骨の比率を加えた耐火構造率は、昭和50年度を除き100%である。昭和50年度

図2-2-26 屋内運動場の構造別保有率



注：1. 「公立学校建物の実態調査報告」(昭46～昭51)による。  
2. 構造別保有率=(構造別保有面積)÷(保有総面積)×100

図2-2-27 屋内運動場の地域別木造保有率



注：1. 「公立学校建物の実態調査報告」(昭51)による。  
2. 保有率=(木造保有面積)÷(保有総面積)×100